

～キャリアの軌跡～



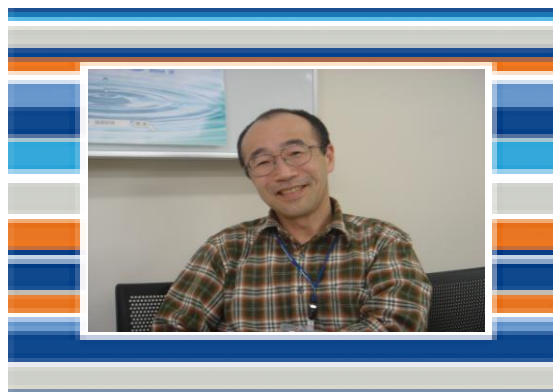
第8号
2009年8月19日
長崎大学病院
医師育成キャリア支援室 発行

Careerという単語は面白い。経歴、履歴という意味。生活手段としての（特に専門的な）職業。その職業での成功や出世の意味。発展するという意味。At full career 全速力で！動詞では、疾走する、突進する。ここでインタビューをする人達は、すでに完成したキャリアを持っている人たちではない。今、走り続けている人たち、全速力で。今からスタートラインに立つあなたのために（医学生や研修医の皆さん）、僕が聞いてみた、キャリアの軌跡を。

長崎大学医学部医学科
病態解析医学 創薬科学

池田 正行 先生

（インタビュアー&文：医師育成キャリア支援室 浜田久之）



室長：本日は、神経内科 DVD などでお馴染みの“マッシー池田”こと、長崎大学創薬科学の教授であります、池田正行先生にお越しいただきました。よろしくお願ひします。

池田：よろしくお願ひします。

室長：まず最初に簡単な経歴をお願ひします。

池田：はい。無名の都立高校を卒業しまして、1年宅浪後に、東京大学の理科Ⅰ類と東京医科歯科大学の医学部に合格しました。たまたま、医学部へ行ったという感じで、人助けをやるなんてことは、当時、考えてなかったと思います。

室長：そうですか。それでは、18歳の頃は何か別の目標があったんですか？

池田：人の行動変容に興味があったので、電通（大手広告会社）に入って宣伝の仕事をして、最終的には内閣広報室に入り世論操作の仕事をやろうかと（笑）。

室長：ちょっと、変わった高校生だったんですね（笑）。何故、そんなことを考えたんですか？

池田：人間の行動や考え方に興味があったんです。だから、そういう分野を医学部で勉強したいと思っていたのかもしれないね。

室長：なるほど。医学部へ行かれてどうでしたか？

池田：やっぱり、命のやりとりというのは、厳しく、逃げ場がないというように感じて、大変だった覚えがあります。病棟実習で人が亡くなることを肌で感じて、自分はやっていけないんじゃないかと思いました。

室長：臨床実習ではプレッシャーが大きかったでしょうね。方向転換しようかと思いましたか？

池田：そうですね。病理学とか法医学とか、命のやりとりから少し離れた所に行こうかとも思いましたが、白衣を着て聴診器を持つ医者の仕事もやりたいという気持ちもあり、迷いました。

神経内科の道を選んで

室長：先生は、神経内科医としてDVD等に出て御高名なのですが、どうして、神経内科の道を選んだのでしょうか？

池田：脳という臓器に興味があったのと、僕にとっては、精神科より神経内科の方が学問として分かりやすかったということでしょうか。

室長：学生や研修医の先生にとって、進路選択は最も悩むところですが、池田先生は、精神科と神経内科の二つで迷われたということでしょうか？

池田：というか、消去法ですね（笑）。僕は、どこかに逃げ道があるキャリアをいつも考えるんです。僕が入局した当時の教授は、入局者は神経内科を一生勉強するのだからという理由で、最初の2年間は、神経内科以外の内科を回るスーパーローテイトに似た方針を打ち出していました。だから僕は、最悪の場合、2年間終わったら、病理とか法医学に逃げちゃおうと思っていました。キャリアには、常に、逃げ道がある方がいいと思うんです。

室長：研修医時代はどうでした？

池田：様々な病院を回り、幅広くなんでもやった感じですね。

室長：今振りかえるとどうですか？

池田：神経内科以外のことが学べたのが本当に良かったですね。キャリアが進むにつれてどんどん専門性が増して視野は狭くなりますので、若い時にいろいろな経験することは非常に有意義ですね。

室長：研修終了後はどうになりました？

池田：逃げるかどうか迷ったんですが、尊敬していた教授から大学院を進められました。教育熱心なこの先生がそう言ってくれるなら、と思い大学院へ入っちゃったんですね。

室長：どんな研究をしていたんですか？

池田：最初の2年間は、初めて神経内科の臨床に没頭して、自分も医者としてやっていけるんじゃないかと思えるようになりました。その後2年間は、基礎研究室で不随意運動のマウスを使った神経薬理の仕事をしていたんですが、それが英文の論文になって嬉しかったですね。

室長：その後は、どういう進路を？

池田：大学院を終えてから、基礎に行くことも考えたんですが、博士号取得のお礼奉公的な意味もあり、850病床に神経内科医は私だけという野戦病院に行きました。当直でマムシ咬傷のようなプライマリケアから神経の専門医療までどっぷり臨床に浸かりました。

スコットランドへの留学

室長：それは、すごい経験ですね。振り子が激しく揺れるキャリアですが、その後はどうなったんですか？

池田：幸運なことに、スコットランドにある研究所が、私の大学院での仕事に注目して、英語もろくにできない私を採用してくれて、2年間グラスゴーという街で勉強しました。

室長：どんなことが印象に残りましたか？

池田：スコットランド人のライフスタイルにびっくりしましたね。週末の度に、山歩きしたり釣りをしたりするのが普通で、こういう人生を送っている人が地球上にはいるんだと思いましたね。

室長：激しい野戦病院からいきなりスコットランドへ行ったから余計にギャップがすごかったんでしょうね。

池田：そうですね（笑）。生きててよかった！と実感しましたね（笑）

大学を離れて

室長：で、ご帰国後は、どうでしたか？

池田：神経内科の医局へ帰ったんですが、いろんなゴタゴタが医局であって、正直、出世を諦めたんですね。

室長：それまでは、出世して教授にでもなってやろう！と思っていたのですか？

池田：そうです。留学もして、筆頭著者で12～3本の英語論文を書いていたし・・・

室長：いわゆるエリートコースと思われたので？

池田：でも、そのゴタゴタの最中に医局長をやれと言われて、これは、命あっての物種と思って、医局を出て重症心身障害者施設で働くことにしました。

室長：それはまた、凄い経験ですね。また、人生のターニングポイントですね。

池田：そうですね。振り返ると、あの時の決断があって今の自分があると思います。

室長：大きな組織を出て、一人でキャリアを作らなければならないときに何が大事だったんでしょうか？

ハッピーなキャリア

池田：自分かそこで、ハッピーかどうかでしょうね。肩書とか年収とかは手段であって、目的ではないですよ。肩書も年収もたいしたことがなくても、そのポジションで自分がハッピーでいられるかどうかが大切ですよ。

室長：なるほど。ですが、大学の第一線から、重症心身障害者施設へ移ると、モチベーションが無くなったんじゃないでしょうか？

池田：確かに当初はそうだったんですが、救ってくれたのは患者さんでしたね。僕を必要としてくれる人がいるんだと思わせてくれた患者さんでした。

室長：これもまた、強烈な経験ですね。その後、どうなされたんですか？

池田：そこに6年半いて、とても楽しかったんですが、別の世界も見てみたいなあ~とも思っていました。

室長：それは、先生のいう‘逃げ道’？

池田：そうですね。選択肢を沢山持っておくということでしょうね。

室長：私には、逃げ道というより、‘安住を嫌い、チャレンジする’に聞こえますが。

池田：チャレンジというか、そうすることが楽しいんですよ。それから、重症心身障害に加えて、精神科や神経病理もある新潟の国立病院へ移りました。

室長：それからは？

池田：かねてから持っていた行政に対する興味がむくむくと頭をもたげてきました。国立病院には、これはおかしい！と言いたくなるような通達が厚労省から沢山来るでしょう？

室長：確かに。

池田：だから、そんな変な通達を出してくるのは一体どんな組織なのか、乗り込んで見てきてやろうと。特に薬の分野に興味があり、日本のFDA（現、独立行政法人医薬品医療機器総合機構【PMDA】）が医者を募集していたので行きました。PMDAでは、新薬の開発相談業務と、治験データの審査業務をしていました。

室長：また、すごい転職ですね（笑）。

池田：（笑）そうですね。でも、いろいろ勉強になりましたよ。また、産官学のいろいろな人とのネットワークができたので、それが今の仕事に生きています。

室長：そのネットワークで長崎に来て、新しい分野で仕事をしているんですね。

池田：創薬科学講座の使命は、経済的な問題から製薬企業が引き受けられない、熱帯病や希少疾病に対する新薬の開発を、大学で展開すること。さらには、新薬開発を目的とした臨床研究や臨床試験を通して人材を育成することです。

室長：なるほど、壮大な仕事ですね。しばらくは、逃げ道を作らないで、長崎に留まって欲しいのですが（笑）、どうですか長崎の印象は？

池田：善男善女が多いですね。裏を返せば、人が良すぎるところもあるかもしれません。

室長：ありがとうございます。最後に研修医や学生の皆さんにメッセージを。

池田：人がやらない仕事をする人は、職場から大事にされるし、競争する必要もないから、じっくり仕事ができます。だから、ハッピーになる確率が高いですよ！というメッセージをお伝えしたいですね。

室長：ありがとうございました。やっぱりハッピーなキャリアを追求して欲しいですね！

～インタビューを終えて～

“逃げ道”は決してマイナス思考の考え方ではないんですね。自分を守るためにも、happyになるためにも大切な“道”の一つのようです。一人一人違うhappyなキャリアの軌跡を描きましょう！

第3回実力アップセミナーを開催しました！

7月4日（土）今回の実力アップセミナーは、東京北社会保険病院 臨床研修センター長の名郷直樹先生をお招きし、EBMについてレクチャーしていただきました！7病院より39名の医師が集まり、パソコンを利用した約2時間半の充実したワークショップとなりました。非常に活気ある面白いセミナーだったと思います！「もっと前に知っていれば・・・」「より効率的で有効な文献検索の方法がわかって勉強になった」という声が多数ありました。さすがは、名郷先生！またお話を聞ける機会があるといいですね（●^o^●）



医師育成キャリア支援室 スケジュール

- 8月23日（日） 佐世保北高校 出張セミナー
 - 9月9日（水） 健保諫早総合病院 出張実力アップセミナー
 - 10月3日（土） シンポジウム&第4回実力アップセミナー
- ※残り7名になっておりますので、お早目にお申し込みください！
※外科腹腔鏡はガレリウス(株)の最新シミュレーターも使用します！

医局説明会 開催スケジュール

- 8月28日（金） 第1内科
- 9月17日（木） 第2内科
- 9月18日（金） 形成外科

※詳細な情報は下記HPをご覧ください！

長崎大学病院 医師育成キャリア支援室

TEL：095-819-7847

FAX：095-819-7882

MAIL：career@ml.nagasaki-u.ac.jp

http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/career/